

1月 いじめを見逃さない日 保護者の方の感想

- みんなが真剣に考えている姿を目にすることができてよかったです。もしも、いじめる側、いじめられる側になっても、自分のことを大切に思う家族がいることは忘れないでほしいと思います。今、自分がしていることは、その人を悲しませることにならないかなって少しでも思ってくれたらいいな。親の想いを子の前で話す、子が知ることができるというのは良いと思います。家庭では見られない姿を見られてよかったです。
- 一人一人向き合うその時間があることが大切だと思いました。「うちでうちの人と話してみてね」とは言うけれど、いざ、家庭でこのようなテーマを話すのは大変難しいです。今日、子どもの輪に入るのは憚られました。それは、私がこのクラスの仲間ではないからです。お互いの良さも悪さも知り、毎日を共有しているクラスだからこそ話し合えるのではないかと思います。話せる子話せない子と人によって参加の仕方は違います。でも、大人になってつらくなったときに一人でも今日の時間を思い出す子がいるような気がします。親の願いは子どもが元気に穏やかに自分らしく生きていってくれることです。「心」を守るために親としても何ができるか考えていきたいです。参加させていただき、本当にありがとうございました。
- 重く難しいテーマであるために、意見も様々、意見さえ見つからない様子の生徒さんもいましたが、定期的にいじめについて考え、意見を出し合うことで、今後、東長良校区から出たとしても、いじめの場面にいくわした時に対応する力が発揮されるのではないかと思います。私の母校の校長は常にあなた方はそれぞれがユニークな存在だと言っていました。未完成な部分があっても、自分を大切にすることをまず意識できるようになっていたと思います。自分に余裕がなければ、他者を大切にすることもできません。自分を認め、褒めることで他者を認めることができると思います。家庭も学校も一人一人が大切な存在であることを意識できる社会になればいいなと思います。
- 生徒の皆さんが自分の意見をしっかり発表出来ていて素晴らしいと思いました。「いじめを考えること」について家族だけでなく地域の人にも更に広げていこうという考えに共感しました。
- 子どもたちの意見を聞いて、ちゃんといろんなことが見えている中で、人と一緒じゃないと不安や見えて見ぬふりをしてしまう環境。一人一人の個性を認め合える環境をつくってほしいと思いました。いろんな人がいて当たり前、いろんな考えがあって当たり前なので、理解していきながら学校生活を楽しくしてほしいです。ここまで、話し合いの中で分かっていたら、きっとストップできると思います。
- クラスの雰囲気がとても良くて、話し合いをする中でお互いの意見を大切にしている感じが伝わってきました。活発な子もいれば、大人しい子もいるので、全員が同じである必要はなく、個を大切にしている時代の教育が進んでいるように感じました。学年のカラーも性別もあるかもしれませんが、子どもは学校が好きで、人間関係に恵まれ、友人や先生に感謝するばかりです。本当にありがとうございます。
- 今回参加させていただき、生徒のみなさんがそれぞれいじめをなくすということについて積極的にお話をしていることに感銘を受けました。一人一人がいじめについて考えるということ自体がいじめをなくすことにつながると思いますので、ぜひ、対話を続けていってほしいです。
- いじめについて、子ども同士で話し合う機会が持てたことは今後も続けてほしいです。子どもたちの話し合いの中で「いじめは悪いこと」という認識があることが分かりました。現在、いじめがある無し分かりませんが、この認識があっても起こる可能性はゼロではないと思います。仲間の言葉にあったよ

うに、人を思いやり、感謝すること。人の違いを受け入れること。このことを常に考えられるよう、話し合う機会を今後も続けてください。厳しい言葉ですが、いじめは犯罪です。遊びではないということも理解してほしいです。

- 本日は参加させていただき、ありがとうございました。心を痛めた日から数年が経ち、いじめに対する意識が薄れているのではないかという心配がありましたが、生徒の皆さんや、このような機会をつくってくださる学校の先生方のご様子からそのようなことはないのだと安心しました。本日の話し合いのように、いじめは誰でも加害者、被害者に成りうるということです。イライラした人がいじめをしやすくなると思います。嫌なことがあり、辛い時に助けてくれる場所があれば、いじめないで済むと思います。また、いじめられた時にそれを止める環境があればエスカレートしないで済むと思います。「SOSを出せる、SOSを受け止める」そのようなことを私も大切にしたいと改めて思いました。
- 小集団の中でいろいろな意見が出ていて、それについて「そうだね」「そう思う」や「それは違うかな」「そうじゃないような」と意見を出し合っているのが良いと思いました。意見交流の少ないグループもありましたが、その中でも一人一人の意見は用紙に書かれていて、自分の中で、しっかりと意見はあるのだなと思いました。いじめということに対して、皆で話し合っていく機会がある、というだけでも防ぐことの1つになるのかなと感じました。ありがとうございました。
- 子どもたちが真剣に話し合う姿に感心する一方で、この姿がすべてではないし、この場で言えない本音もあるだろうと思います。学校での姿、部活や地域家庭での姿はまた違う面も持っていると思います。学校での話し合いが、その子一人一人にとって表面的なきれいごとではなく、本当に心に響いてほしいと思っています。いじめを見逃さない日の取組も同様に、「やっています」という体制だけにならない様に続けてもらいたいです。日々の生徒からの相談も表面上、うまく対処するだけでなく、関わった子どもたちの気持ちに真に寄り添ってもらえたら、保護者として安心です。子どもたちは想像以上に大人が心の底から信頼できる人なのか見ていると思います。先生方も保護者も子どもから信頼され、小さいことでも相談してもらえる相手になれたらと思います。子どもと保護者が想いを交換できる機会をつくってくださりありがとうございました。今後ますます広がっていくことを願っています。
- 今日は貴重な機会（直接生徒と対話する機会）を与えて頂き、ありがとうございました。「いじめが起らない雰囲気づくり」というキーワードが出ましたが、やはり生徒たちの考えは漠然としていて、考えてはいるんだけどそれを表現する言葉が見つからない。具体的に分からない様子も見受けられました。子どもたちの書いた感想用紙が見てみたいです。
- いじめがなぜ起こるのかを考えたとき「考え方の違い」という所から自分の精神状態、イライラすることが原因だという意見には、ハッとしました。自分が中学校の頃には、自分のことをあまり客観的に見ることができていなかったのが、今日、子どもたちの話を聞いていて、自分を客観的に見ること、そして周囲への目を配っていることがとても伝わりました。いじりがエスカレートしてしまうという意見もあり、これは相手のことを深く知らないと起こりやすいのではないかと思います。「いじめを防ぐために大切なこと」で話し合った、普段から会話するコミュニケーションをとることが相手を知り、いじりのエスカートを防ぐことができるのではないかと思います。家庭によって様々だと思いますが、家で親子の会話もとても大切だと思います。声の大きさ、高さで大体子どもの機嫌が分かるものです。親としてアンテナを張って見守っていけるところは気にしていきたいと思います。
- 生徒のみなさんが、しっかり意見を言っている姿を見て、強い意志を感じました。最初の放送で、答え

は人それぞれ。正解は一つじゃないと言われた通り、いろんな意見があって当然なのですが、これといって間違ってるな、ちょっと違うなという意見はなく、月1回行われている「考える日」が有意義な時間なんだろうなと、頼もしく思いました。友達や家族に相談すると話してくれる子も多くいて、改めて親としてコミュニケーションをとることの大切さを感じました。貴重な経験をさせてもらいました。ありがとうございました。

- 東長良の子どもたちのいじめはダメだという意識がとても高いことに驚きました。中学校ではいじめは起こらなかったけど、高校に行ったとき、違う考え方の子達と一緒にになったときに、どうやっていじめから身を守るのか、どうやって逃げるのか教えてあげたらいいなと思いました。「うちの中学校はいじめはだめって学校だったから、自然にそうなっちゃった」と言えるようになるといいなと思います。子どもたちはとてもまじめなので、もっと楽をさせてあげられるように大人はサポート（ストレス発散など）が出来る環境を作っていけたら、もっといじめは少なくなるかもしれません。
- 今回の参加にあたり、あらためていじめについて考えました。何と話せば良いのか不安でしたが、授業に参加させていただいて中学生の皆がいじめに対してとても真剣に考え、話し合っている姿を尊敬しました。日頃から、沢山の話し合いがなされているのだなと思います。自分が中学生だった頃より、ずっと大人だなと思えました。このような貴重な時間に参加させて頂く機会を頂けたことを嬉しく思います。本当にありがとうございました。
- 本日参観する中で子どもたちが自分たちの言葉でいじめを語る姿にとっても感銘を受けました。昔であればタブーであるような話題、答えのない議論でも、ちゃんと向き合う姿が素晴らしいと思います。全員が自分の言葉で伝え合うところもさすが3年生ですね。いじめを防ぐということは最も困難なことであると思います。ですが、一人一人の心の火種をどう鎮めていくか、自分の弱さや不安とどう向き合うか考える。それができると良いですね。そのためには、自分を大切にする、自分の良さを自分自身が、また周りの人にも手伝ってもらい発見していく。そうして自分を好きになることが大切だと思いました。このような良い機会を与えて頂き、ありがとうございました。
- いじめについて考えると、本当に答えが見つかりません。今日こうして子どもたちの話を聞かせていただき、大人とは違う素直な気持ちを知り、先生の話の伺い本当にそうだなあと心を動かされる時間でした。今は自分の周りに困っている人がいないと思っても、自分の発する言葉や行動は思い合うことができているのかなといつも心のどこかで、気を配ることが大切です。これからどんどん広い世界へ行く子どもたちが、人として自分を大切に生きていける心をこのクラスで育むことができたことに、先生方への感謝の気持ちでいっぱいです。皆で前を向いて明るく元気に生きていってほしいと切に思います。こんな素敵な時間をありがとうございました。
- 子どもたちの話し合いの中で、「からかい、いじり」と「いじめ」の境界線は、どこにあるのかという事について話題になっていました。ある生徒が「これくらい大丈夫だろう、と思っても、人と人とは感覚の違いがある。自分は大丈夫でも、相手がダメな場合もあるから難しい。」と話していたのが印象的でした。感覚は目に見えないものだから、難しいのだろうと私も思いました。だからこそ、相手を理解しようとするのであったり、他者を大事にする心だったり、いじめを防ぐためには、必要なのだと思います。子どもたちは毎月いじめを見逃さない日でいじめの怖さを知り、いじめについて仲間と話し合ってきました。だからこそ、いじめを防ごうとする心が育まれているのだろうと思います。今後、中学を卒業し、進学したり、社会に出たときにも、その心を大切にしていってほしいと思いました。

- なぜ、いじめが起こるのかのテーマの話し合いの場で「いつの間に」と発言する子どもがいました。自分がいじめている自覚がないことが一番怖いのです。いじめ方にはいろいろあるからなくす方法も1つではないと思います。ただ、人と接する時に自分は人間と接するんだということを意識しながら接するようにしたいです。学校生活の中でいじめも社会に出てからのいじめもなくなることはないと思いますが、少なくとも私の周りからはなくなってほしいです。私とは意見の違う人、合わない人と接する時も口角をあげて会話したいです。
- 中学3年生という多感な時期、人に向き合うという事を難しく感じることもあると思います。そんな中、皆さん前を向いて育ててみえると思えました。時代は違いますが、小さなすれ違いで私自身、1か月ほどクラスの女子に無視された経験もあります。後になって相手の子が謝ってくれて終わりましたが、自分の経験からしか伝えられませんが、私は今、0～2歳の小さな子と過ごしています。みんな、ものすごく意地悪をしあっています。おもちゃの取り合いや場所の取り合いでお互いを気持ち良いほどひっぱたき、かみつきます。でも、そんな小さな子でもそれを繰り返すと、おもちゃを取った後、他のおもちゃを差し出します。泣いている子の頭をなでるようになります。みんな忘れていく年齢ですが、そんなころから相手に怒ったり優しくしたりしながら育てています。とても微笑ましいです。小さい中学生も大人も相手がいる以上、関わります。それを知れただけで、皆さんはとても立派です。
- 「いじめ」をテーマに、それぞれの意見を出し合い、考える時間をもつことは、とても素晴らしい取り組みだと思います。話し合いの中で、積極的に意見を交わすことで、いろいろな考え方があることに気付くことも出来ますし、私自身も自分はどのようにしているかなと考えました。普段、家庭で「いじめ」をテーマに会話することがあまりありませんので、ぜひ、今日子どもと話してみたいと思います。本日の参加は急でしたが、子どもたちのお話が聞けてとても良かったです。ありがとうございました。
- 個性と認める、一度自分を客観的に見てみるなど、思ったより深い部分の話が聞けました。親が思っていることも伝えることができ良かったです。和気あいあいとした雰囲気、皆さんの意見が聞けて貴重な時間となりました。家でいじめについて話すのは、なかなか難しいかもしれませんが、学校であったことや友達の話など、どんな些細な事でも話してくれると良いなあと思います。
- 3年間このいじめについて、とことん話し合い、考えてきた様子がよく分かりました。私たち大人は今までもこのように考えることはほぼなく、子どもたちが皆楽しく元気に過ごしていくには、と考えるばかり。分からないことが多いです。今回を機により先の問題について話し合っていたらと思います。この子どもたちが大人になって、周りにどう影響を与え、また教えていくのか、楽しみでもあります。